

骨にして新たな命を吹き込む

哺乳類担当

群馬県立自然史博物館には、哺乳類検体が多く搬入される。県内で有害鳥獣捕獲や個体数調整によって捕獲された個体が主であり、いずれも死亡年月日、採取場所など基本情報を伴っている。これらは県内における野生動物の生息状況を明らかにする貴重な検体であり、群馬県野生鳥獣適正管理計画の基礎データや県内における放射性物質汚染状況調査の資料の他、教育普及素材や展示用標本等として活用される。

哺乳類分野には、動物の骨の形や姿、内部構造など、様々な視点から骨に魅せられた方々がボランティアとして活動されている。博物館のボランティアとは、館の普及教育活動の一環で、利用者がより高度な学びを積み上げていく機会である。今回、展示としてボランティアの活動を紹介する運びになったのは、彼女／彼らが自発的に骨に触れ、骨を通してその動物の生態について学び、さらに伝え、輪が広がっていく流れが、ここ数年の間に大きくなってきたことによると言えるのではないだろうか。また、標本の視点でみると、骨標本として綺麗になった標本たちは、ボランティア等の手によって新たな命を吹き込まれ、自然界の語り部として活躍していくのである。

本コーナーは、彼女／彼らの骨に対する「伝えたい」思いを、自らの手で企画・構成し、お互いに相談し、「みんなで作った展示」である。骨に対する熱い思いを感じていただけたら幸いである。



キーワード 群馬県、哺乳類、骨標本化、骨形態、展示